



くじらの町「太地町」をもっと知ろう



こしき ほげいはっしょう 古式捕鯨発祥の地として、400年間くじらと共に暮らしてきた太地町。

昔から人々の生活に根ざしてきたくじら文化は今もさまざまな形で残り、脈々と受け継がれています。

くじらとともに歩んだ太地町

紀伊半島の南部に位置する人口約3000人の小さな港町・太地町。和歌山県の30市町村の中で最も面積が小さいこの町の歴史は、くじらと共に歩んできたと言えます。組織的な捕鯨が始まったのは1606年。くじらが太地の沖を通る季節に、くじらだけを専門的に捕まえる集団が生まれました。町に面した熊野灘は今でも20種のくじらが見られる、まさに「くじらの聖地」です。



古式捕鯨が町をゆたかに

太地で始まった組織的な捕鯨は、手漕ぎの船でくじらを追いかけ、たくさんの銚を打ってくじらをしとめました。

太地町には昔から「くじら一頭七浦うるおす」という言葉があります。各船に乗るだけでなく、船を作る人、捕ったくじらを肉にする人、油をとる人など、1頭のくじらに多くの人が関わり、その町の周りの町々まで豊かになるからです。それぞれに役割が決められていたことから、船の檣を漕ぐ人は「漁野」さん、油をとる人は「由谷」さん、見張りをしていた人は「遠見」さん…というように、今でもその名残が太地の人たちの苗字に残り、ご先祖さまが昔捕鯨においてなにの仕事をしていたのかがわかります。



時代とともに変わるくじら文化



お話を聞いた人

太地町漁業協同組合
専務理事
貝 良文さん

その後、突き取り法から、くじらの進路に張った網にくじらをかませ、それから銚を突く「網かけ突き取り法」へと発展しましたが、百名以上が行方不明になる遭難事故が1878年に発生し、太地の古式捕鯨は終わりを迎えました。やがて欧米で発達した近代的な捕鯨法が導入され、日本沿岸だけでなく、はるか南極海にまで出漁するようになりましたが、国際捕鯨委員会 (IWC) で商業捕鯨の一時停止が決まり、1987年からは、調査捕鯨と、日本の法律で管理する小規模な捕鯨だけが行われていました。そして2019年に、念願の商業捕鯨が再開されました。現代のくじら文化は、肉を「食べる」、骨やひげを工芸品として「加工する」だけでなく、「観る」「研究する」といった新しい分野にも発展しています。

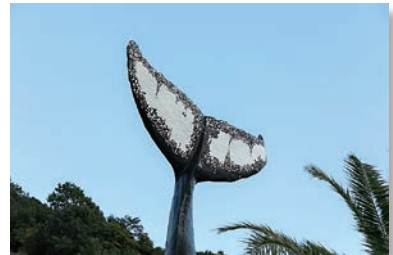
100年後も見すえた現代の捕鯨

現在は小型捕鯨船を使った基地式捕鯨を中心に捕鯨を行なっています。海をわたる鯨を探しだし、見つけると追尾し、火薬を使った銚でしとめます。一度潜ると長く、ツチクジラだと約40分間は海上に現れませんが、追尾のうまいベテランになると、もぐっていく尻尾の角度で次に上がる場所を言い当てるといいます。狙うくじらによって海域は違い、関東や東北の海に行くことも。捕る頭数は科学者の調査にもとづいて決められており、100年たっても、くじらが絶滅しないようにとれる数を決めて捕鯨が行われています。



くじらから生まれた「共同」精神

太地町の人たちに共通しているのが「共同」の精神です。くじらがとれると肉が売れるだけでなく、いろいろな仕事生まれます。そのため生活にくじらが欠かせず、お祭りや伝統芸能にもくじらが登場します。そんなくじら文化の中で生まれたのが、ひとりではなくみんなで分配して平等に暮らしていける「おすそわけ」の文化。今もその考え方は生きており、漁協のスーパーではお弁当1個でも買いに来れないお年寄りのために配達。町の子どもたちの教育面や、町の整備などにかかる費用を漁協が町に寄附するなどし、協力しています。くじらの恵で住民の生活を豊かにしていく。そんなふうになんがが暮らしていたからこそ生まれ、育まれた考え方です。



未来に向けた太地町の取り組み

海に面したくじら浜公園には昔の捕鯨船があり、くじらの生態学的資料や、捕鯨に関する歴史文化的資料を集約した「くじらの博物館」が建っています。そのすぐ傍の海水浴場は夏場になるとくじらと一緒に泳ぐ事ができ、町の玄関



口にあたる森浦湾にはくじらを放し飼いにし、研究したり、遊歩道で眺めたり、シーカヤックと一緒に遊ぶこともできます。未来には町全体が大きな公園のようになり「総合的に楽しんでもらえるくじらのまち」「誰もが一度は訪れてみたいくじらを研究するまち」を目指しています。



お話を聞いた人

太地町役場
くじらの海推進班
和田 正希さん

さが探しにGO!

太地町を探検しよう!



太地町内を探検すると、あちこちでくじらに出会えるよ。
ふと見渡せばくじら、くじら、くじら…。

まるで町がくじらのテーマパークのよう。そんなくじらのまちをぐるりと巡って、いろんなくじらを探してみよう!



くじらのモニュメント

国道42号線から太地くじら公園方面に入ると、町のシンボルともいえる実物大のザトウクジラの親子がお出迎え。



灯台の風見鯨

梶取崎の灯台で目を凝らすとつべんに見えるのは「風見くじら」。「風見鶏」は一般的ですが、風見くじらは太地ならではの。



道の駅 たいじ

くじらの料理が食べられたり、くじら肉やグッズが買える道の駅。天井内部はくじらの骨をイメージしています。



飛鳥神社の絵馬

太地の氏神、飛鳥神社の境内に結ばれているのは手描きの絵馬。描かれているのはもちろん「くじら」です。



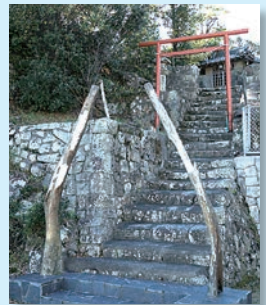
太地くじら浜公園

北洋や南氷洋で実際に活躍した捕鯨船「第一京丸」は太地くじら浜公園に展示され、いつでも見ることができます。



鯨骨鳥居

本物のイワシクジラのアゴ骨で作られたえびす神社の鳥居。これがアゴだけと思うと、くじらの大きさを実感できます。



くじらのマンホール

足元を見ると、マンホールにもくじら! 太地町らしく荒波を勇ましく泳ぐくじらが「太地」の文字とともにデザインされています。



漁協スーパー

漁協が直営していることからくじら肉も販売している珍しいスーパー。町の人々の貴重なお買い物スポットです。



くじらのバス停

くじらの町を巡る太地町営
じゅんかんバス。バスの車
体にもくじらが描かれてい
ますが、バス停にもくじら
がいるんです。



くじらの供養碑

梶取崎にあるくじらの供養
の碑。くじらの命をいただき
仕事をする人たちからの
精一杯の感謝と鎮魂のた
めに建てられました。



くじら浜海水浴場

毎年夏になると1日2回く
じらが放たれる海水浴場
がオープンします。



小さな町のいたるところにくじら
が用いられ、くじらなくして語れな
い「くじらタウン」それが太地町で
す。はじめてくじらに触れる人、
もっと深くくじらを知りたい人、ど
んな人もきつと訪れるたび新たな
発見があるはずです。



まち全体がくじらで
いっぱいだって、
わくわくするね!

うん、
行ってみたいね!

